

Dell EMC Update Manager 1.1

ユーザー ガイド

メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: はじめに	4
Update Manager のロール ベースの権限.....	4
章 2: Update Manager のインストール	6
OpenManage Enterprise のアップデート設定の構成.....	6
Update Manager のインストール.....	6
Update Manager 1.1 へのアップグレード.....	7
章 3: Update Manager の設定	8
Update Manager のプリファランス設定.....	8
プロキシの設定または編集.....	8
デバイス マネージャー エンティティの所有権の移行.....	9
アラートの管理.....	10
アラート ログの表示.....	10
アラート ポリシーの作成.....	10
アラート ポリシーの管理.....	11
Update Manager の特定ジョブの表示.....	11
ジョブ リストの表示.....	11
ジョブタイプ.....	11
個別のジョブ詳細の表示.....	12
監査ログの表示.....	12
章 4: リポジトリの作成と表示	13
SUU ISO ファイルを使用したリポジトリの作成.....	13
リポジトリの作成.....	13
リポジトリの詳細の表示.....	15
リポジトリ ダッシュボードの表示.....	16
デバイスのファームウェア/ドライバー アップデートのチェック.....	16
ベースライン コンプライアンス レポートを使用したファームウェアおよびドライバーのアップ デート	17
章 5: リポジトリの管理	19
アップデート パッケージのインポート.....	19
リポジトリの削除.....	20
デバイス バンドルまたはアップデート パッケージの削除.....	20
リポジトリの更新.....	20
章 6: Update Manager のメンテナンス	22
Update Manager の無効化.....	22
Update Manager の有効化.....	22
Update Manager のアンインストール.....	22
章 7: 監査とログ	24

はじめに

Dell EMC Update Manager プラグイン (UMP) は OpenManage Enterprise 向けの統合ソリューションであり、IT 管理者は、iDRAC または Windows オペレーティング システムを実行する OpenManage Enterprise で管理される PowerEdge デバイスのリポジトリを作成し、管理することができます。対応 PowerEdge デバイスの詳細に関しては、OpenManage Enterprise の[サポート マトリックス](#)を参照してください。

リポジトリは、システム バンドルとそれに関連付けられている Dell Update Packages (DUP) で構成されています。システム バンドルは、同一のターゲット プラットフォームに適用され、同じ形式の関連するアップデートを配置するためにグループ化できるソフトウェア コレクションです。Dell EMC Update Package (DUP) は、標準パッケージ形式の自己完結型の実行可能ファイルで、Dell サーバーまたはストレージ上の BIOS、デバイス ドライバー、ファームウェア、その他同様のソフトウェア アップデートなどの特定のソフトウェア要素をアップデートします。これらのバンドルおよびリポジトリは、複数のファームウェア アップデートの同時導入を可能にします。Update Manager は、EXE フォーマットの Dell EMC Update Packages (DUP) をサポートしています。

Update Manager では、次の操作を行って最新のファームウェアとソフトウェアでシステムを最新の状態に保つことができます。

- システムをアップデートするために、リポジトリを最新の状態に保つ。
- リポジトリ内にあるカタログの手動または自動アップデートを許可する。
- アップデート パッケージのインポートまたは削除によってリポジトリをカスタマイズする。
- リポジトリ内のコンポーネントのファームウェアをアップデートするために使用できる、リポジトリのベースライン コンプライアンス レポートを表示することを許可する。

トピック：

- [Update Manager のロール ベースの権限](#)

Update Manager のロール ベースの権限

以下の表に、Update Manager のユーザー ロールの権限を示します。

表 1. Update Manager のロール ベースの権限

機能	システム管理者	デバイス マネージャー (DM)	閲覧者
Update Manager のインストールまたはアンインストール	許可	未許可	未許可
Update Manager の有効化または無効化	許可	未許可	未許可
プロキシの構成	許可	未許可	未許可
プリファランス設定	許可	未許可	未許可
リポジトリの作成	許可	許可	未許可
アップデート パッケージのインポート	許可	許可 (DM が所有)	未許可
リポジトリまたはバンドルまたはアップデート パッケージの削除	許可	許可 (DM が所有)	未許可
リポジトリの更新	許可	許可 (DM が所有)	未許可
リポジトリ ダッシュボードの表示	許可	許可 (DM が所有)	許可
リポジトリの表示	許可	許可 (DM が所有)	許可
[リポジトリ] ページからベースライン コンプライアンス	許可	許可 (DM が所有)	未許可

表 1. Update Manager のロールベースの権限 (続き)

機能	システム管理者	デバイス マネージャー (DM)	閲覧者
レポートを表示または編集します。			

OpenManage Enterprise のロールベースの権限

次の表では、Update Manager ユーザーに必要な OpenManage Enterprise の機能を示しています。

表 2. OpenManage Enterprise のロールベースの権限

機能	システム管理者	デバイス マネージャー	閲覧者
ベースライン コンプライアンス レポートを使用したファームウェアのアップデート	許可	許可 (DM が所有)	未許可
アップデート設定	許可	未許可	未許可
アラート ポリシーの作成	許可	許可 (DM が所有)	未許可

Update Manager のインストール

[コンソールおよびプラグイン] ページの [アップデート設定] を使用して、プラグインを検出します。次に、[コンソールおよびプラグイン] ページの [Update Manager] セクションからプラグインをインストールします。

トピック：

- OpenManage Enterprise のアップデート設定の構成
- Update Manager のインストール
- Update Manager 1.1 へのアップグレード


OpenManage Enterprise のアップデート設定の構成

前提条件

- OpenManage Enterprise 3.6 がインストールされていることを確認します。
- オンライン ソースがアップデート用に選択されている場合は、安定したインターネット接続があることを確認します。
- ネットワーク共有がアップデートのソースとして使用されている場合は、dell.com から OpenManage_Enterprise_UpdateManager_1.1_A00.zip フォルダをダウンロードします。

手順

1. [アプリケーションの設定]、[コンソールおよびプラグイン] の順にクリックします。
2. [アップデート設定] をクリックします。
3. [手動] を選択します。このオプションを選択すると、指定されたソースからアップデートを手動でチェックすることができます。

 **メモ:** Update Manager の検出では、自動アップデートはサポートされていません。

4. アップデートを適用するソースを選択します。
 - [Dell.com](オンライン) - アプライアンスは、https://downloads.dell.com/openmanage_enterprise から直接アップデートが入手可能かどうかを確認します。
 - [ネットワーク共有](オフライン) - アプライアンスは、アップデート パッケージを含む指定した NFS、HTTP、または HTTPS パスからアップデートをチェックします。[今すぐテストする] をクリックすると、指定したネットワーク共有への接続が検証されます。
5. [適用] をクリックします。

 **メモ:** プラグインが検出された後に、Update Manager を手動でインストールする必要があります。

Update Manager のインストール

前提条件

コンソールとプラグインを[アップデート](#)します。

このタスクについて

Update Manager をインストールするには、次の手順を実行します。

手順

1. Dell EMC OpenManage Enterprise を起動します。
2. [アプリケーションの設定] で、[コンソールとプラグイン] をクリックします。

3. [プラグイン] セクションで、[Update Manager] の [インストール] オプションをクリックします。
[プラグインのインストール] ウィンドウが表示されます。
4. [プラグインのダウンロード] をクリックします。
プラグインがダウンロードされ、ダウンロードのステータスが右上隅の緑色のバーに表示されます。
5. [インストール] をクリックします。
OpenManage Enterprise アプライアンスが再起動し、[アップデート管理] が [プラグイン] の下に表示されます。

Update Manager 1.1 へのアップグレード

前提条件

- Update Manager 1.0 は、OpenManage Enterprise バージョン 3.5 アプライアンスにあります。
- OpenManage Enterprise バージョン 3.5 から OpenManage Enterprise バージョン 3.6 にアップグレードしていることを確認します。Update Manager 1.0 は、OpenManage Enterprise バージョン 3.5 では最新バージョンにアップグレードできません。
ⓘ メモ: OpenManage Enterprise 3.6 のインストール後、プラグインの 1.0 バージョンは無効状態になっています。
- アップグレードの作業を開始する前に、ブラウザのキャッシュと Cookie をクリアするようにしてください。

このタスクについて

Update Manager プラグインを 1.1 バージョンにアップグレードするには、次の手順を実行します。

手順

1. OpenManage Enterprise から、[アプリケーション設定]、[コンソールおよびプラグイン] の順に移動します。
2. [アップデート設定] をクリックして、必須入力フィールドを選択します。詳細については、「[アップデート設定](#)」を参照してください。
ⓘ メモ: Update Manager の検出では、自動アップデートはサポートされていません。
3. [コンソールおよびプラグイン] ページの [Update Manager] セクションに移動し、[アップデート利用可能] をクリックします。
4. [アップデートのダウンロード] をクリックします。
アプライアンスが再開してプラグインがアップデートされますが、無効状態のままになります。
5. プラグインを有効にするには、[有効] をクリックします。詳細については、「[Update Manager の有効化](#)」を参照してください。

タスクの結果

Update Manager プラグインが、1.1 バージョンにアップデートされます。プラグインの 1.0 バージョンのすべてのリポジトリとそれに関連付けられたコンテンツは、引き続き使用できます。

- ⓘ メモ:** プラグインの 1.1 バージョンは、SBAC 機能をサポートしています。デバイス マネージャー権限を持つユーザーのみが、デバイス マネージャー ユーザーの作成時に、[ユーザー スコープ] に定義されているリポジトリを表示または編集できます。SBAC 機能の詳細については、『[Dell EMC OpenManage Enterprise バージョン 3.6 ユーザーズ ガイド](#)』を参照してください。
- ⓘ メモ:** 管理者権限を持つユーザーのみが、Active Directory (AD) および Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ユーザーによって作成されたリポジトリを表示できます。

Update Manager の設定

トピック：

- Update Manager のプリファランス設定
- プロキシの設定または編集
- デバイスマネージャー エンティティの所有権の移行
- アラートの管理
- Update Manager の特定ジョブの表示
- 監査ログの表示

Update Manager のプリファランス設定

このタスクについて

リポジトリのバージョン制限およびプラグインによって使用されるストレージスペースの設定は、[プリファランス] ページで行うことができます。

手順

1. OpenManage Enterprise ホーム ページで [プラグイン] を選択し、[アップデート管理] を選択してから、[設定] を選択します。
2. [プリファランス] をクリックします。
[プリファランス] ページが表示されます。
3. [バージョン管理] では、保存可能なリポジトリのバージョンの最大数を設定します。
 - [無制限]: このオプションはデフォルトで選択されており、1つのリポジトリに対してバージョンを無制限に格納することができます。
 - [最大バージョン数]: 格納可能なリポジトリの最大バージョン数を入力します。リポジトリのバージョン数がこの値を超えると、最も古いバージョンが自動的に削除されます。
4. [使用可能なストレージスペース] には、Update Manager プラグイン専用のストレージスペースの総量が表示されます。表示される値は、OpenManage Enterprise で使用可能なストレージ全体の 20% です。[使用済みのストレージスペース] には、プラグインによって使用されているストレージスペースの総量が表示されます。
[使用済みのストレージスペース] は、何らかのリポジトリ操作が完了した後にのみアップデートされます。
5. [ストレージ制限の設定] に、10 GB を最小値、[使用可能なストレージスペース] に表示される値を最大値とする範囲内の整数を入力して、Update Manager プラグインのストレージ制限を設定します。[ストレージ制限の設定] に入力する値は、[使用済みのストレージスペース] の値より小さくしないようにしてください。
この制限を設定する際には、[使用可能なストレージスペース] の値をそのまま使用しないことをお勧めします。
[使用済みのストレージスペース] の値がこの設定された制限の 80% を超えると、アラートが生成されます。[使用済みのストレージスペース] の値がこの制限を超えると、重要アラートが生成され、進行中のリポジトリ操作はすべて失敗します。
このフィールドのデフォルト値は 25 GB です。
6. [適用] をクリックします。
設定を以前の値に戻す場合は、[破棄] をクリックします。

プロキシの設定または編集

このタスクについて

Update Manager プラグインを使用すると、OpenManage Enterprise プロキシの設定を行うことができます。OpenManage Enterprise でプロキシが設定されている場合は、ここで編集して、OpenManage Enterprise で使用することができます。

手順

1. OpenManage Enterprise ホーム ページで [プラグイン] をクリックし、[Update Manager] を選択してから、[設定] を選択します。
[ネットワーク] ページが表示されます。
2. [プロキシの設定] または [プロキシの編集] をクリックします。
3. [HTTP プロキシ設定を有効にする] を選択して、[プロキシ アドレス] および [ポート番号] フィールドに情報を入力します。
4. プロキシで認証が必要な場合は、[プロキシ認証の有効化] を選択して、プロキシの認証情報を入力します。
5. [適用] をクリックします。

デバイス マネージャー エンティティの所有権の移行

前提条件

デバイス マネージャー エンティティの所有権を移行する前、またはデバイス マネージャーのユーザー スコープを変更する前に、Update Manager の特定ジョブが実行中でないことを確認します。所有権の移行中にリポジトリの更新、作成、インポート、削除の操作が行われている場合、そのリポジトリに関連付けられているベースラインとジョブを、移行先のユーザーは使用できません。

このタスクについて


このトピックでは、特定のデバイス マネージャーが作成したリポジトリ、ベースライン、ジョブ、ファームウェアまたは設定のテンプレートとベースライン、アラート ポリシーなどのエンティティを、管理者が別のデバイス マネージャーに移行する方法について説明します。管理者は、デバイス マネージャーが組織から離脱するときに、「所有権の移行」を開始できます。

メモ:

- OpenManage Enterprise でこのタスクを実行するには、管理者ユーザー権限が必要です。
- 「所有権の移行」は、デバイス マネージャーによって所有されている、デバイス グループ (スコープ) ではなく、エンティティのみを別のデバイス マネージャーに移行します。
- エンティティの所有権の移行を開始する前に、管理者は最初に、以前のデバイス マネージャーによって所有されているデバイス グループを、引き継ぐデバイス マネージャーに再割り当てする必要があります。
- エンティティの所有権が Active Directory ユーザー グループに移行されると、所有権はその AD グループのすべてのメンバーに移行されます。

ジョブ、ベースライン、ファームウェアまたは設定のテンプレートとベースライン、アラート ポリシーなどのエンティティの所有権を、特定のデバイス マネージャーから別のデバイス マネージャーに移行するには、次の手順を実行します。

手順

1. OpenManage Enterprise から、[アプリケーション設定]、[ユーザー] の順に移動します。
2. デバイス マネージャー ユーザーを選択して、[所有権の移行] をクリックします。
3. [ソース ユーザー] ドロップダウン リストから、エンティティの所有権を移行する必要があるデバイス マネージャーを選択します。
 **メモ:** ソース ユーザーは、ジョブ、FW または設定テンプレート、アラート ポリシー、それらに関連づけられたプロファイルなどのエンティティを持つ、ローカル、Active Directory、OIDC、または削除されたデバイス マネージャーのみを一覧表示します。
4. [ターゲット ユーザー] ドロップダウン リストから、エンティティの移行先とするデバイス マネージャーを選択します。
5. [完了] をクリックし、プロンプト メッセージで [はい] をクリックします。

タスクの結果

リポジトリ、ベースライン ジョブ、ファームウェアまたは設定のテンプレート、アラート ポリシーなど、所有されているすべてのエンティティが、「ソース」のデバイス マネージャーから「ターゲット」のデバイス マネージャーに移行されます。

アラートの管理

リポジトリが更新されたとき、およびリポジトリ ストレージが設定された制限を超えたときに、アラートが生成されます。リポジトリの更新タスクについて、メール アラートを設定することもできます。

アラート ログの表示

OpenManage Enterprise から、[アラート] に移動し、[アラート ログ] をクリックして、生成されたアラートを表示します。デフォルトでは、未確認アラートののみが表示されます。

アラートについての情報は、[アラート ログ] の次の列に表示されます。

- [アラート]: アラートの重大度。
- [確認]: アラートが確認された場合は、[確認] にチェックマークが表示されます。[確認] の下にある角かっこの間をクリックして、アラートを確認または未確認にします。
- [時刻]: アラートが生成された時刻。
- [ソース名]: Update Manager によって生成されたすべてのアラートについて、ソース名が [N/A] と表示されます。
 - ① **メモ:** 検出されていないデバイスまたは内部アラートのソース名は、アラートを生成したデバイスの IP アドレスです。この場合、ソース名に基づいてアラートをフィルタリングすることはできません。
- [カテゴリー]: カテゴリーは、監査、設定、またはアップデート対象のアラート タイプを示します。
- [メッセージ ID]: 生成されたアラートの ID。
- [メッセージ]: 生成されたアラート。
- 右側のボックスには、選択したアラートの詳細説明や推奨処置などの追加情報が表示されます。

これらの列見出しのいずれかをクリックして、アラートをソートします。

[詳細フィルター] を使用してアラートをフィルタリングします。アラートのフィルタリングには、次の追加情報を使用できます。

- アラートが生成された [開始日] または [終了日]。
- [サブカテゴリー]: アラートのサブカテゴリー。
 - ① **メモ:** リポジトリの更新タスクに対して生成されたアラートをフィルタリングするには、[カテゴリー] ドロップダウンリストで [アップデート] を選択し、[サブカテゴリー] リストの [リポジトリの更新] をクリックします。
- [ユーザー]: 管理者権限を持つユーザーによって処理されたアラートをフィルタリングすることができます。

アラート ポリシーの作成

このタスクについて

リポジトリ更新タスクのアラート ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

- ① **メモ:** Update Manager バージョン 1.0 の DM ユーザーによって作成されたアラート ポリシーは、Update Manager バージョン 1.1 にアップグレード後、同じデバイス マネージャー (DM) ユーザーにはアクセスできません。ただし、これらのアラート ポリシーには、管理者のみがアクセスできます。

手順

1. [アラート] に移動し、[アラート ポリシー] をクリックして、[作成] をクリックします。
2. アラート ポリシーの名前と説明を入力して、[次へ] をクリックします。[ポリシーの有効化] チェック ボックスは、デフォルトでオンになっています。
3. [Update Manager] を選択し、[次へ] をクリックします。
4. [未検出デバイス] を選択し、[次へ] をクリックします。
5. [日付範囲] と [日数] に必要な値を選択し、[次へ] をクリックして、アラート ポリシーが適用される期間を指定します。

① **メモ:** このステップは任意です。

① **メモ:** Update Manager 用に作成されたアラート ポリシーに時間間隔を設定することはできません。

6. アラートの重大度を選択し、[次へ] をクリックします。
7. [Eメール] を選択し、フィールドに情報を入力して、[次へ] をクリックします。

このオプションは、指定された受信者に E メールを送信します。Update Manager は、E メール通知のみをサポートしています。

メモ: 同じカテゴリー、メッセージ ID、およびコンテンツの複数のアラートに対する E メールは、受信トレイでの繰り返しまたは冗長なアラート メッセージを回避するため、2分ごとに1回のみトリガーされます。

8. 作成されたアラート ポリシーの詳細を確認し、[完了] をクリックします。

アラート ポリシーの管理

[アラート ポリシー] ページでアラート ポリシーが作成されると、編集、有効化、無効化、削除を行うことができます。さらに、OpenManage Enterprise は、アラートを受信したときに関連するアクションをトリガーする統合アラート ポリシーを提供します。これらの統合アラート ポリシーを編集または削除することはできませんが、有効または無効にすることができます。

作成されたアラート ポリシーを表示するには、[アラート] に移動し、[アラート ポリシー] をクリックします。すべてのアラート ポリシーを選択または選択解除するには、表のヘッダーにあるチェック ボックスを選択します。アラート ポリシーの横にある1つまたは複数のチェック ボックスを選択して、次のアクションを実行します。

- [編集]: アラート ポリシーを選択し、[編集] をクリックして、[アラート ポリシーの作成](#) ダイアログ ボックスで必要な情報を編集します。
- [有効化]: 1つまたは複数のアラート ポリシーを選択し、[有効化] をクリックします。アラート ポリシーが有効になっている場合、[有効] 列の下にチェックマークが表示されます。[有効化] ボタンは、すでに有効化されているアラート ポリシーに対しては非アクティブ化されています。
- [無効化]: 1つまたは複数のアラート ポリシーを選択し、[無効化] をクリックします。アラート ポリシーが無効になり、[有効] 列のチェックマークが削除されます。[無効化] ボタンと [編集] ボタンは、すでに無効化されているアラート ポリシーに対しては非アクティブ化されています。アラート ポリシーの作成時に [有効化] チェック ボックスをオフにした場合も、アラート ポリシーを無効にすることができます。
- [削除]: 1つまたは複数のアラート ポリシーを選択し、[削除] をクリックします。

Update Manager の特定ジョブの表示

このセクションでは、Update Manager のさまざまなジョブ タイプと、それらを表示する方法について説明します。

ジョブ リストの表示

OpenManage Enterprise から、[監視] に移動し、[ジョブ] をクリックして、既存のジョブ リストを表示します。ジョブに関する情報が、次の列に表示されます。

- [ジョブ ステータス]: ジョブの実行ステータス。
- [状態]: ジョブが有効または無効かどうか。
- [ジョブ名]: ジョブの名前。
- [ジョブ タイプ]: ジョブのタイプ。詳細については、[「ジョブ タイプ」](#) を参照してください。
- [説明]: ジョブの説明。
- [最終実行]: ジョブが最後に実行された日付と時刻。

これらの列見出しのいずれかをクリックして、ジョブをソートします。

[詳細フィルター] を使用してジョブをフィルタリングします。ジョブのフィルタリングには、次の追加情報を使用できます。

- [初回実行]: 指定された日付以降に実行されたすべてのジョブをフィルタリングします。
- [ソース]: [すべて]、[ユーザー生成]、[システム生成] のいずれかのジョブを選択します。

ジョブタイプ

表 3. OpenManage Enterprise のジョブ タイプ

ジョブタイプ	説明
[UMP_Delete_Task]	DUP とカタログの削除ジョブを表示します。
[UMP_Download_Task]	作成されたリポジトリの DUP とカタログのダウンロード ジョブを表示します。

表 3. OpenManage Enterprise のジョブ タイプ (続き)

ジョブタイプ	説明
[UMP_Import_Task]	DUP のインポート ジョブを表示します。
[UMP_Update_Task]	更新ジョブの DUP およびカタログのダウンロードを表示します。

個別のジョブ詳細の表示

特定ジョブの詳細を表示するには、ジョブを選択し、[詳細の表示] をクリックします。次の情報が表示されます。

- [ジョブの詳細]:
 - ジョブの名前、タイプ、説明、ステータスが表示されます。
 - ジョブのステータスが [停止]、[失敗]、または [新規] の場合は、[ジョブの再開] をクリックします。
- [実行履歴]:
 - ジョブの時間と期間、および完了した割合を表示します。
 - [詳細フィルター] セクションで、ターゲット システムのステータスまたは名前でジョブをフィルタリングします。
- [実行の詳細]: ジョブが実行されたリポジトリとジョブにかかった時間を表示します。

ページの右側には、ジョブの [結果] とそれに関連付けられた [メッセージ] が表示されます。

監査ログの表示

監査ログは、OpenManage Enterprise で監視されているデバイスで実行されたアクションをリストします。ログ データは、ユーザーまたは Dell EMC サポート チームによるトラブルシューティングおよび分析に役立ちます。Update Manager 1.1 に固有の EEMI メッセージの詳細については、[監査とログ] を参照してください。

監査ログを表示するには、[監視] をクリックしてから、[監査ログ] をクリックします。各監査ログの詳細は、次の列に表示されます。

- [重大度]: ログ内の情報の重大度。
- [タイム スタンプ]: ログ内のアクションが実行された日付と時刻。
- [ユーザー]: ログに記録されたアクションを実行したユーザー。
- [メッセージ ID]: 生成されたログの ID。
- [ソース アドレス]: ログを生成したシステムの IP アドレス。
- [カテゴリー]: 監査ログには 2 つのカテゴリーがあります。
 - [監査]: ユーザーが OpenManage Enterprise アプライアンスにログインまたはログアウトしたときに生成されます。
 - [設定]: ターゲット デバイス上で何らかのアクションが実行されると生成されます。
- [説明]: ログの説明。

任意の列見出しをクリックして、監査ログをソートします。

[詳細フィルター] を使用して、監査ログをフィルタリングします。[開始時間] と [終了時間] を使用して、指定した期間中に生成された監査ログをフィルタリングすることができます。

リポジトリの作成と表示

トピック：

- SUU ISO ファイルを使用したリポジトリの作成
- リポジトリの作成
- リポジトリの詳細の表示
- リポジトリ ダッシュボードの表示
- デバイスのファームウェア/ドライバー アップデートのチェック

SUU ISO ファイルを使用したリポジトリの作成

このタスクについて

このセクションでは、Server Update Utility (SUU) の ISO ファイルを使用してリポジトリを作成する方法について説明します。SUU ベースのカタログを使用しない場合は、「[リポジトリの作成](#)」に進んでください。

手順

1. 必要な SUU ISO ファイルを <https://www.dell.com/support/> からダウンロードします。詳細については、『*DELL EMC OpenManage Server Update Utility ユーザーズ ガイド*』を参照してください。
2. ファイルをネットワーク共有に保存します。サポートされているネットワーク共有タイプは、NFS、CIFS、HTTP、HTTPS です。
3. ISO イメージ ファイルを右クリックして、任意の抽出ユーティリティーを使用して同じネットワーク共有に抽出します。
4. リポジトリ フォルダーから、[Catalog.xml] ファイルのフォルダー パスをコピーします。

① メモ:

- [Catalog.xml] ファイルのバージョン番号は表示されません。
- [Catalog.xml] ファイルのファイル名は変更できません。

5. [リポジトリの作成](#) ワークフローで、[ベース カタログ] を [ネットワーク共有] に設定し、[共有アドレス] と [カタログ ファイルパス] に必要な情報を入力します。

① **メモ:** [接続のテスト] オプションでは、OpenManage Enterprise がその場所にアクセスできるかどうかを確認します。

リポジトリの作成

前提条件

- ① **メモ:** Update Manager バージョン 1.0 で Active Directory (AD) ユーザーまたは Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ユーザーが作成したリポジトリまたはベースラインは、Update Manager バージョン 1.1 にアップグレードした後の管理者のみがアクセスできます。
- サポートされている PowerEdge デバイスは、OpenManage Enterprise で検出および管理される必要があります。
- downloads.dell.com にアクセスするには、安定したインターネット接続があることを確認します。必要に応じて、OpenManage Enterprise の [プロキシ](#) を設定します。
- Server Update Utility (SUU) ベースのカタログを使用するには、SUU ISO ファイルをネットワーク共有にダウンロードし、同じ場所に ISO ファイルを解凍します。詳細については、「[SUU ISO ファイルを使用したリポジトリの作成](#)」を参照してください。

手順

1. OpenManage Enterprise ホーム ページで [プラグイン] をクリックし、[アップデート管理] を選択してから、[リポジトリ] を選択します。
2. [リポジトリの作成] をクリックします。
[リポジトリの作成] ウィンドウが表示されます。
3. [全般] セクションで以下の詳細情報を入力して、[次へ] をクリックします。
 - [名前]: 一意のリポジトリ名を 255 文字以内で指定します。特殊文字は含まないようにしてください。
 - [説明]: リポジトリの説明を入力します。1024 文字を超えないようにしてください。
 - [ベースライン名]: ベースライン名は、リポジトリ名として指定された名前が自動入力されます。ベースライン名は必要に応じて変更することをお勧めします。
 - [ベースラインの説明]: ベースラインの説明は、リポジトリの説明で入力された説明が自動入力されます。ベースラインの説明は必要に応じて変更することができます。説明の長さは 500 文字を超えないようにしてください。
 - [ベース カタログ]: ドロップダウン リストから [エンタープライズ サーバー カタログ]、[インデックス カタログ]、または [ネットワーク共有] のいずれかを選択します。
 - [エンタープライズ サーバー カタログ]: Dell EMC PowerEdge サーバーおよびシャーシ用の Dell Update Packages の最新の BIOS、ドライバー、およびその他のファームウェアがすべて含まれています。エンタープライズ サーバー カタログの最新バージョンがデフォルトで選択されます。
 - [インデックス カタログ]: ESXi や MX 検証スタックなどのソリューション固有のカタログ、およびすべてのエンタープライズ サーバー カタログの古いバージョンにアクセスできます。[カタロググループ] ドロップダウン リストからカタログの種類を選択します。デフォルトでは、そのカタログの最新バージョンが選択されています。選択したカタロググループの古いバージョンは、[カタログ] ドロップダウン リストに表示されます。リポジトリに必要なカタログのバージョンを選択します。
 - [ネットワーク共有]: このオプションを選択すると、任意のオフライン ネットワーク パスからカスタム エンタープライズ カタログを選択できます。[共有タイプ] ドロップダウン リストを使用して、ローカル ネットワーク共有からカタログを選択します。サポートされている共有タイプは、NFS、CIFS、HTTP、HTTPS です。
 - ① **メモ:** Dell EMC Repository Manager または Dell EMC Server Update Utility (SUU) ベースのカタログを使用して作成された、アップデート可能なコンポーネントを含むカタログを使用することもできます。
 - ① **メモ:** [共有アドレス] のサポートされている形式は、IPv4、IPv6、ホスト名です。サポートされている [カタログファイルパス] の形式は、/directory/subdirectory/file または directory/subdirectory/file です。[今すぐテスト] を選択すると、スキーマの検証が実行されます。これにより、ファイルが適切にフォーマットされ、不要なデータや破損したデータがなくなります。認証オプションの値を入力し、[今すぐテスト] を選択してネットワーク共有の接続をテストします。
 - ① **メモ:** 選択したカタログのダウンロードに失敗した場合、アプライアンスが応答しなくなることがあります。ブラウザを更新して、OpenManage Enterprise を再ロードします。
 - [カタログのアップデート] - 選択したカタログを手動または自動でアップデートすることができます。
 - ① **メモ:** [アップデート頻度] ドロップダウン リストで、週次または日次の自動アップデートを設定します。日付を選択し、[HH:MM] フィールドで自動アップデートを行う時刻を指定します。
 - ① **メモ:** リポジトリが最初に作成された 24 時間後に自動アップデートが開始するように設定されていることを確認します。
4. [デバイス/グループ] セクションで、リポジトリに必要なデバイスまたはグループを選択し、[次へ] をクリックします。デバイス マネージャー権限を持つユーザーが表示または選択できるのは、管理者がそのユーザーを作成するときに [ユーザー スコープ] で選択したグループのみです。デバイス マネージャー権限を持つユーザーがアクセスできないグループには、グループ名の横にロック アイコンが表示されます。
 - [すべてのデバイス] - 選択したカタログ内のすべてのデバイスを選択します。
 - [デバイス] - 選択したカタログ内のデバイスのリストからデバイスを選択します。[すべての選択したデバイス] をクリックして、選択したデバイスを表示し、[Ok] をクリックします。
 - [グループ] - 選択したカタログ内で使用可能なデバイスのグループ (複数可) を選択して、[OK] をクリックします。PowerEdge デバイスとそれらが配置されているグループが、[デバイスの選択] および [グループの選択] ウィンドウの左側に表示されます。検索を絞り込むには、[詳細フィルター] を使用します。
5. [サマリー] セクションに、ここまで入力した情報のサマリーが表示されます。[終了] をクリックして、リポジトリを作成します。

タスクの結果

作成されたリポジトリが、[リポジトリ] および [概要] ページに表示されます。[UMP_download_Task] ジョブがトリガーされ、カタログとそれに関連付けられているリポジトリの DUP がダウンロードされます。ダウンロードしたカタログと DUP は、[ジョブの詳細] ページの [メッセージ] セクションに表示されます。このダウンロードジョブが完了するまで、リポジトリは

使用できません。ベースラインは、[設定] の下にある [ファームウェア/ドライバーのコンプライアンス] ページに表示されません。

ネットワーク共有を使用してリポジトリが作成されている場合、カタログのバージョンは、[概要] と [リポジトリ] ページに [ネットワーク] として表示されます。SUU カタログを使用してリポジトリが作成されている場合、カタログバージョンは表示されません。

リポジトリの詳細の表示

リポジトリは、[アップデート管理] の [レポジトリ] ページに一覧表示されます。管理者権限または閲覧者権限を持つユーザーは、すべてのリポジトリを表示することができます。デバイス マネージャー権限を持つユーザーは、そのユーザーが作成したリポジトリのみを表示することができます。

メモ: Update Manager バージョン 1.0 で Active Directory (AD) ユーザーまたは Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ユーザーが作成したリポジトリまたはベースラインは、Update Manager バージョン 1.1 にアップグレードした後の管理者のみがアクセスできます。詳細については、「[デバイス マネージャー エンティティの所有権の移行](#)」を参照してください。

リポジトリを展開すると、リポジトリ内にあるデバイス バンドルとコンポーネントが表示されます。リポジトリの詳細が、次の列に表示されます。

- [名前]: リポジトリの名前。
- [バージョン番号]: リポジトリのバージョン番号。
- [サイズ]: リポジトリ内の DUP の合計サイズ。

メモ:

- すべてのリポジトリの合計サイズが、使用可能な総ストレージ容量を超えているように見えることがあります。ただし、DUP が複数のリポジトリに存在する場合でも、DUP のコピーが1つだけ保存されます。
- リポジトリの作成時に ESXi カタログを選択した場合、リポジトリのサイズは0として表示されます。

- [変更日]: リポジトリが変更された日付と時刻。
- [ラベル]: 各コンポーネントのアップデートの重要度が表示されます。デバイス バンドルを展開すると、各バンドルのコンポーネントが表示されます。
 - [重要] - コンポーネントはただちにアップデートする必要があります。
- **メモ:** OpenManage Enterprise は、[緊急] の DUP を [重要] として分類します。
 - [任意] - コンポーネントのアップデートはオプションです。
 - [推奨] - コンポーネントのアップデートをお勧めします。
- [説明]: 作成したリポジトリに付けられた説明。

[名前]、[バージョン]、または [変更日] をクリックして、列見出しに従ってリポジトリを並べ替えます。

選択したリポジトリの追加情報が、ページの右側に表示されます。

- [レポートの表示] を使用すると、[ファームウェア/ドライバーのコンプライアンス] ページで、デバイスのコンポーネントとリポジトリのバンドル、およびその関連するベースラインが表示されるコンプライアンス レポートが開きます。詳細については、「[デバイスのファームウェア/ドライバー アップデートのチェック](#)」を参照してください。
- [編集]: リポジトリの名前、説明、ベースライン名、ベースラインの説明を変更することができます。[ファームウェア/ドライバーのコンプライアンス] ページから、Update Manager プラグインを使用して作成されたベースラインの名前を編集しないことをお勧めします。
- ドーナツ グラフに、コンポーネント アップデートの重要度のレベルがまとめて表示されます。
- リポジトリ内のコンポーネント数。
- リポジトリの作成時に選択されたデバイスの数。[デバイス] の横にある情報アイコンをクリックすると、すべてのデバイスの名前、IP アドレス、モデルが表示されます。リポジトリの作成後に追加または削除したデバイスは、[デバイス] フィールドに反映されません。
- [カタログ バージョン]: リポジトリが作成されたカタログのバージョン。
- [使用可能なカタログ バージョン]: カタログの使用可能な最新バージョン。
- リポジトリのすべてのバージョン。
- [所有者]: リポジトリを作成したユーザー。
- [最終更新者]: リポジトリで最後に変更を行ったユーザー。

[詳細フィルター] セクションを使用すると、次のコンポーネントのいずれかを基準にしてリポジトリをフィルタリングすることができます。

- [名前]: デバイスまたはコンポーネントの名前を入力します。

- [重要度]: ドロップダウンメニューからコンポーネントアップデートの重要度を選択します。

 **メモ:** OpenManage Enterprise は、[緊急] の DUP を [重要] として分類します。

- [カテゴリー]: コンポーネントのカテゴリーを選択します。
- [タイプ]: アップデートのタイプを選択します。

フィルターが適用されたら、リポジトリを展開して、フィルタリングされたコンポーネントを表示します。任意のリポジトリのデバイスバンドルがフィルタリングされた条件を満たしていない場合、その下に赤色のバーが表示されます。

[リポジトリ] ページでは、次の機能もサポートされています。

- 1つまたは複数のリポジトリとリポジトリバージョンの削除
- 1つまたは複数のリポジトリバンドルとアップデートパッケージの削除
- アップデートパッケージのインポート
- リポジトリに関連付けられているカタログのアップデート

リポジトリ ダッシュボードの表示

[アップデート管理] の [概要] ページには、既存のすべてのリポジトリを表示するダッシュボードが含まれています。管理者権限または閲覧者権限を持つユーザーは、すべてのリポジトリを表示することができます。デバイス マネージャー権限を持つユーザーは、そのユーザーが作成したリポジトリのみを表示することができます。

リポジトリの次の詳細情報が表示されます。

- リポジトリ名。
- [現在のバージョン]: 現在のリポジトリのバージョン番号が表示されます。バージョン番号をクリックすると、特定のリポジトリのバージョンのリストが表示されます。
- リポジトリ内のデバイス数。
- リポジトリ内に存在するカタログのバージョン。
- リポジトリ内のコンポーネントの数と、それらのアップデートの重要度のレベル。

[リポジトリの表示] をクリックすると、選択したリポジトリの詳細情報が [リポジトリ] ページに表示されます。


デバイスのファームウェア/ドライバー アップデートのチェック

このタスクについて





このセクションでは、ベースラインの各デバイスと関連付けられたカタログのコンプライアンスを確認する方法について説明します。Update Manager によって作成されたベースラインのコンプライアンスを確認するには、次の手順を実行します。

手順

リポジトリを選択して、[レポートの表示] をクリックします。

 **メモ:** ベースライン コンプライアンス レポートは、最新バージョンのリポジトリに対してのみ生成されます。

[ファームウェア/ドライバーのコンプライアンス] ページにリダイレクトされ、ベースライン コンプライアンス レポートが次の情報とともにそこに表示されます。

- [コンプライアンス レベル]: デバイスのファームウェアと関連付けられたベースライン カatalogのコンプライアンス レベルを示します。
 - [OK]  — デバイス コンポーネントのファームウェアまたはドライバーのバージョンは、関連付けられているベースライン カタログと同じです。
 - [重要]  — デバイス コンポーネントのファームウェアまたはドライバーのバージョンがベースライン カタログに準拠していないため、直ちにアップデートする必要があります。
 - [警告]  — デバイス コンポーネントのファームウェアまたはドライバーのバージョンがベースラインに準拠していないため、アップグレードする必要があります。
 - [ダウングレード]  — デバイス コンポーネントのファームウェアまたはドライバーのバージョンが、ベースラインのバージョンより新しいものです。

- [タイプ]: コンプライアンスレポートが生成されるデバイスのタイプ。
 - [デバイス名/コンポーネント]: デフォルトでは、デバイスのサービス タグが表示されます。デバイス名をクリックして、コンポーネントのリストと、最新のカタログとのコンプライアンスを表示します。
 - ① **メモ:** 関連付けられたファームウェア ベースラインに準拠しているすべてのデバイス (MX7000 シャーシを除く) については、デバイス名は表示されません。
 - [サービス タグ]: サービス タグ ナンバーをクリックすると、[<デバイス名>] ページにデバイスについての詳細情報が表示されます。
 - [再起動が必要]: ファームウェアをアップデートした後でデバイスの再起動が必要であることを示します。
 - [情報] ①: 各デバイス コンポーネントに対応するアイコンは、ファームウェア/ドライバーをアップデートできるサポート サイト ページにリンクしています。
 - [現在のバージョン]: デバイスの現在のファームウェアバージョンを表示します。
 - [ベースラインバージョン]: 関連カタログで使用可能なデバイスの対応ファームウェア/ドライバーのバージョンを示します。
- デバイスまたはコンポーネントを検索するには、[詳細フィルター] セクションで情報を選択または入力します。

タスクの結果

このベースライン コンプライアンス レポートを使用して、ベースラインに関連付けられているデバイスおよびコンポーネントのファームウェアおよびドライバーをアップデートすることができます。詳細については、『*Dell EMC OpenManage Enterprise* バージョン 3.6 ユーザーズ ガイド』を参照してください。

- ① **メモ:** 次の場合には、レポートの表示オプションが無効化されるか、または不正確なベースライン コンプライアンス レポートが生成される可能性があります。
 - Update Manager プラグインを使用して作成したベースラインを変更または削除した。
 - 別のカタログを含む別のリポジトリと同じ名前をベースラインに付けた。
- ① **メモ:** [ファームウェア/ドライバーのコンプライアンス] ページでベースラインを編集した場合、その変更は Update Manager プラグインには反映されません。リポジトリの機能は、編集されたベースラインを含むリポジトリに対しては動作しません。

ベースライン コンプライアンス レポートを使用したファームウェアおよびドライバーのアップデート

前提条件

- プロキシ設定を使用して HTTP および HTTPS 共有を設定している場合は、アップデート タスクを開始する前に、これらのローカル URL がプロキシ例外リストに含まれていることを確認してください。
- 任意の時点でターゲット マシン上で開始できるアップデート タスクは1つのみです。

このタスクについて

ベースライン コンプライアンス レポートを使用して、ベースラインに関連付けられているデバイスまたはコンポーネントのファームウェアまたはドライバーをアップデートすることができます。

手順

1. アップデートするデバイスを含むベースラインで、[レポートの表示] をクリックします。
2. 1つまたは複数のデバイスまたはコンポーネントのコンプライアンス レベルをチェックし、対応するチェック ボックスを選択します。

必要に応じて、[詳細フィルター] を使用してデバイスまたはコンポーネントを指定します。すべてのチェック ボックスを選択するには、列見出しのチェック ボックスを選択します。
3. [一致させる] をクリックします。
4. [アップデートのスケジュール] で、次のいずれかを選択します。
 - [今すぐアップデート]: ファームウェア/ドライバーのアップデートをすぐに適用します。
 - [実行日時を指定]: ファームウェアまたはドライバーのバージョンをアップデートする日時を指定します。このモードは、現在のタスクに影響を与えたくない場合に推奨します。
5. [サーバー オプション] で、次のいずれかを選択します。
 - [サーバーを今すぐ再起動]: ファームウェアまたはドライバーのアップデート後にサーバーを再起動します。

- [次回サーバー再起動までステージング]: サーバーが次回再起動したときに、ファームウェアまたはドライバーをアップデートします。

i **メモ:** ファームウェア/ドライバーのアップデート ジョブがこのオプションを使用して作成された場合は、リモート デバイスにパッケージをインストールした後で、インベントリーとベースラインのチェックを手動で実行する必要があります。

6. [iDRAC をリセット] を選択して、アップデート ジョブを開始する前に iDRAC を再起動します。

i **メモ:** この機能は、ドライバーのアップデートではサポートされていません。

7. [ジョブ キューをクリア] を選択して、アップデート ジョブが開始される前に、ターゲット デバイス上のすべてのジョブを削除します。

8. [アップデート] をクリックします。

リポジトリの管理

Update Manager では、次のリポジトリ機能がサポートされています。

- リポジトリまたはデバイス バンドルにアップデート パッケージをインポートする。
- リポジトリを削除する。
- デバイス バンドルおよびアップデート パッケージを削除する。
- リポジトリを更新する。

これらのいずれかの機能のジョブが進行中の場合、他の操作は許可されません。

[リポジトリのバージョン管理] - リポジトリの削除以外の前述のいずれかのアクションを実行すると、新しいバージョンのリポジトリが作成されます。バージョン番号は 0.01 ずつ増加します。リポジトリのバージョンがアップデートされない場合は、ブラウザーを更新するか、別のページに移動します。リポジトリが持つことができるバージョンの数は、[アップデート管理のブリファランス](#)で構成された制限によって異なります。

デバイス マネージャー エンティティの所有権を移行する前、またはデバイス マネージャーのユーザー スコープを変更する前に、Update Manager の特定ジョブが実行中でないことを確認します。

メモ: リポジトリのバージョン番号の変更は、監査ログに反映されません。最新バージョンのリポジトリを表示するには、[概要] または [リポジトリ] ページに移動します。

トピック :

- [アップデート パッケージのインポート](#)
- [リポジトリの削除](#)
- [デバイス バンドルまたはアップデート パッケージの削除](#)
- [リポジトリの更新](#)

アップデート パッケージのインポート

このタスクについて

アップデート パッケージは、1つまたは複数のリポジトリまたはデバイス バンドルへのローカル パスからのみインポートすることができます。 .EXE ファイル形式のパッケージのアップデートのみがサポートされています。

手順

1. OpenManage Enterprise から [アップデート管理] に移動し、[リポジトリ] をクリックします。
2. アップデート パッケージをインポートするリポジトリまたはバンドルを選択し、[インポート] をクリックします。
 - すべてのリポジトリを選択するには、[名前] の左側にあるチェック ボックスを選択します。
 - 1つまたは複数のリポジトリを選択するには、該当のリポジトリの横にあるチェック ボックスを選択します。
 - 1つまたは複数のバンドルを選択するには、リポジトリを展開し、該当のデバイスの横にあるチェック ボックスを選択します。
3. [参照] をクリックして、ローカル システムからアップデート パッケージを選択します。
アップデート パッケージをデバイスまたはリポジトリに適用できない場合は、エラー メッセージが表示されます。

メモ:

- アップデート パッケージに有効な署名がない場合、インポート操作は正常に行われません。
- インポートする DUP のファイル名を変更しないことをお勧めします。

4. インポート ジョブが完了したら、[終了] をクリックします。

タスクの結果

インポート ジョブが正常に完了すると、リポジトリのベースラインとカタログもアップデートされます。リポジトリがアップデートされ、そのバージョンは 0.01 ずつ増加します。

リポジトリに同じタイプのアップデートパッケージが存在する場合は、インポートされたアップデートパッケージに置き換えられます。アップデートパッケージがリポジトリ内の別のアップデートパッケージとまったく同じである場合は、リポジトリに変更は加えられません。

リポジトリの削除

このタスクについて

リポジトリを削除するには、次の手順を実行します。

手順

1. [プラグイン] から [アップデート管理] に移動し、[リポジトリ] をクリックします。
2. 1つまたは複数のリポジトリを選択して、[削除] をクリックします。
3. 削除するリポジトリの特定のバージョンを選択するか、[すべてのバージョン] を選択します。
4. [削除] をクリックします。

タスクの結果

ジョブの削除が正常に完了すると、リポジトリが削除され、[概要] と [リポジトリ] ページに表示されなくなります。リポジトリを使用して作成されたベースラインとカタログは、[ファームウェア/ドライバーのコンプライアンス] ページからも削除されます。

デバイスバンドルまたはアップデートパッケージの削除

このタスクについて

リポジトリからデバイスバンドルを削除したり、パッケージをアップデートしたりするには、次のタスクを実行します。

手順

1. [プラグイン] から [アップデート管理] に移動し、[リポジトリ] をクリックします。
2. デバイスバンドルまたはアップデートパッケージを選択します。
 - 1つまたは複数のデバイスバンドルを選択するには、リポジトリを展開し、該当のバンドルの横にあるチェックボックスを選択します。
 - デバイスバンドルを展開し、コンポーネントの横にあるチェックボックスを選択して、1つまたは複数のアップデートパッケージを選択します。
3. [削除] をクリックします。
4. [削除] ウィンドウのチェックボックスを選択して、既存のすべてのバンドルからアップデートパッケージを削除します。
5. [削除] をクリックします。

タスクの結果

デバイスバンドルまたはアップデートパッケージがリポジトリから削除されます。リポジトリがアップデートされ、そのバージョンは 0.01 ずつ増加します。

リポジトリの更新

前提条件

リポジトリに十分なストレージスペースがあることを確認します。リポジトリのストレージスペースを管理するには、[リポジトリの削除またはコンポーネントの削除に関する項](#)を参照してください。

このタスクについて

リポジトリ更新タスクは、リポジトリ内にあるカタログを、使用可能な最新バージョンに置き換えます。デバイスマネージャー権限を持つユーザーの場合、ユーザーに割り当てられたユーザー スコープに基づき、更新タスクによってリポジトリ内に存在するデバイスまたはグループもアップデートされます。

メモ: 最新バージョンのリポジトリのみ更新できます。

次のいずれかの場合、リポジトリを更新する必要があります。

- リポジトリ内に存在するカタログに変更が加えられた場合。
- デバイスマネージャーユーザーに割り当てられたグループに新しいデバイスが追加されたか、またはグループからデバイスが削除された場合。
- デバイスマネージャー権限を持つユーザーのスコープが変更された場合。
- OpenManage Enterprise の [デバイス] セクションにデバイスが追加されたか、またはセクションからデバイスが削除された場合。

カタログは自動または手動で更新することができます。自動更新のスケジュールは、リポジトリの作成時に選択します。自動更新タスクが完了すると、[最終実行日時] と [次回実行日時] が、選択した更新ジョブの [ジョブ] ページに表示されます。

リポジトリを手動で更新するには、次の手順を実行します。

手順

1. [プラグイン] から [アップデート管理] に移動し、[リポジトリ] をクリックします。
2. リポジトリの横にあるチェックボックスを選択します。
3. ページの右側に移動し、[最終更新日] の横にあるアイコンをクリックします。

カタログが以前にアップデートされた場合、最後にカタログがアップデートされた日付と時刻が表示されます。

タスクの結果

リポジトリに関連付けられているカタログが、OpenManage Enterprise のデフォルトのリポジトリの場所で、使用可能な最新バージョンにアップデートされます。カタログのバージョンは、[ファームウェア/ドライバーのコンプライアンス] の [カタログ管理] ページでもアップデートされます。最新のベースラインおよびアップデートパッケージを使用して、ベースラインコンプライアンスレポートを生成します。リポジトリがアップデートされ、バージョンの数字が 0.01 ずつ増加します。

デバイスバンドルまたはアップデートパッケージが以前に削除された場合は、リポジトリの更新ジョブによって、削除されたバンドルおよびアップデートパッケージと一緒にリポジトリがアップデートされます。生成されたカタログの新しいバージョンには、削除されたコンポーネントの詳細が含まれています。また、同じカタログを使用してコンプライアンスレポートを生成します。

更新操作を行う前に、OpenManage Enterprise でグループに対するデバイスの追加または削除、あるいはデバイスに対するコンポーネントの追加または削除を行った場合、その変更は更新完了後にリポジトリに反映されます。

ストレージスペースが不足している場合、リポジトリは正常に更新されず、それぞれのアラートログと監査ログが生成されません。

メモ: デバイスマネージャー権限を持つユーザーの場合、管理者がリポジトリに存在するグループを [ユーザー スコープ] から削除しても、更新後にその変更はリポジトリに反映されません。

メモ: デバイスマネージャーユーザーのスコープの変更は、最新バージョンのリポジトリでのみ反映されます。

メモ: デバイスマネージャーユーザーの割り当てられたスコープからデバイスグループのすべてが削除されると、リポジトリの更新ジョブは失敗します。

Update Manager のメンテナンス

トピック：

- Update Manager の無効化
- Update Manager の有効化
- Update Manager のアンインストール

Update Manager の無効化

手順

1. [アプリケーションの設定] [コンソールおよびプラグイン] の順にクリックします。
2. [Update Manager] セクションに移動し、[無効化] をクリックします。
3. [プラグインの無効化] をクリックします。
4. [確認] ウィンドウのチェック ボックスを選択して、[無効化の確認] をクリックします。

タスクの結果

アプリケーションが再起動し、[プラグイン] セクションの下に [アップデート管理] は表示されなくなります。Update Manager によって作成されたベースラインは、プラグインが無効化されている場合でも使用できます。

Update Manager の有効化

このタスクについて

プラグインが無効化されたら、次の手順を実行して有効にすることができます。

手順

1. [アプリケーションの設定] [コンソールおよびプラグイン] の順にクリックします。
2. [Update Manager] セクションに移動し、[有効化] をクリックします。
3. [プラグインの有効化] をクリックします。
4. [確認] ウィンドウのチェック ボックスを選択して、[有効化の確認] をクリックします。

タスクの結果

アプリケーションが再起動し、[プラグイン] セクションの下に [アップデート管理] が表示されるようになります。

Update Manager のアンインストール

手順

1. [アプリケーションの設定] [コンソールおよびプラグイン] の順にクリックします。
2. [Update Manager] セクションに移動して、[アンインストール] をクリックします。
3. [プラグインのアンインストール] をクリックします。
4. [確認] ウィンドウのチェック ボックスを選択して、[アンインストールの確認] をクリックします。

タスクの結果

アプリケーションが再起動し、[アップデート管理]が[プラグイン]セクションに表示されなくなります。プラグインがアンインストールされると、そのプラグインによって作成されたすべてのカタログとベースラインがクリアされ、使用できなくなります。

監査とログ

Update Manager は、監査ログにある監視対象デバイスで実行されるすべてのアクションを一覧表示します。OpenManage Enterprise コンソールを使用して、すべての関連情報を含む監査ログを生成します。監査ログファイルは CSV ファイル形式にエクスポートできます。次の表では、Update Manager で使用されるすべての EEMI メッセージの詳細を示しています。

表 4. Update Manager の EEMI メッセージ

メッセージ ID	メッセージの説明
CUMP0001	リポジトリ<repoName>が正常に更新されました。
CUMP0002	リポジトリ<repoName>を更新できません。
CUMP0003	リポジトリは、構成されたストレージ制限を超えています。
CUMP0004	リポジトリ<repoName>を作成できません。
CUMP0005	リポジトリ<repoName>を削除できません。
CUMP0008	アップデートパッケージをリポジトリ<repoName>にインポートできません。
CUMP0011	リポジトリ<repoName>が正常に作成されました。
CUMP0012	リポジトリ<repoName>が正常にアップデートされました。
CUMP0013	リポジトリ<repoName>が正常に削除されました。
CUMP0014	構成データが正常にアップデートされました。
CUMP0015	選択したカタログのアップデートパッケージが使用可能です。
CUMP0016	選択したカタログのアップデートパッケージは使用不可です。
CUMP0017	カタログ<catalogName>が正常にアップデートされました。
CUMP0018	カタログ<catalogName>をアップデートできません。
CUMP0019	ストレージスペースは、構成された値の 80%に達しているか、または超えています。
CUMP0020	バージョンの最大数がすでに作成されているため、リポジトリのバージョンを作成できません。
CUMP0021	リポジトリ<repository name>のリポジトリのバージョン<version number>が正常に削除されました。
CUMP0022	リポジトリ<repository name>のリポジトリ バンドルまたはコンポーネントが正常に削除されました。
CUMP0023	<task name>操作の実行後、リポジトリ<repository name>のリポジトリのバージョン<version number>が正常に作成されました。
CUMP0024	リポジトリ<repository name>が正常に編集されました。